

いどい



仁淀川町
広報

11

2007年
月号 No.28



10月21日池川地区運動会が行われ、大勢の参加者が熱い戦いを繰り広げました

天

熱

晴

戦

主な 内容

- 2・3.....運動会・体育祭
- 4.....森分団準優勝 高知県消防操法大会
- 5.....タイ・ベトナムの大学生ら来町
- 6.....都の太鼓踊り
- 7.....星ヶ窪ハイキング
- 8.....てくてく山紀行・青滝山



▲名野川保育所 9月30日



▲ふたば保育所 9月30日



▲大崎小学校 9月30日



▲名野川小学校 9月30日

秋空に大歓声

運動会・体育祭

町内の保育所（園）、幼稚園、小・中学校、仁淀高校で運動会・体育祭が行われました。
園児や児童、生徒は、練習の成果を精いっぱい発揮して、競技や演技に取り組んでいました。



▲池川中学校 9月16日



▲吾川中学校 9月23日



▲仁淀中学校 9月23日



▲池川小学校 10月7日



▲別府小学校 9月30日



▲長者保育所 10月14日



▲長者小学校 9月30日



▲仁淀高校 10月14日



▲大崎保育所 10月7日



▲池川保育園 10月20日



▲池川幼稚園 10月7日

森分団準優勝（小型ポンプ）

十月七日、高知県消防操法大会（主催：高知県、財団法人高知県消防協会）が県消防学校グラウンド（いの町）で開催され、町代表として森分団と池川分団が出場しました。

大会は二年ごとに開かれているもので、県内各地区から予選を勝ち抜いた代表三十六

チーム、二百人余りが日ごろの訓練の成果を競いました。

競技はポンプ車の部と小型ポンプの部に、それぞれ十八チームが出場。いずれも後方の防火水槽から水を取り、ホースをつないで的である火点に向けて放水するというものです。

審査は、火点が倒れるまで

の時間や動作が採点の対象で、志気、規律を含めた迅速で確実な操法技術が求められます。

森・池川両分団の選手はきびきびとした動きを披露し、森分団は小型ポンプの部で準優勝、池川分団はポンプ車の部で敢闘賞を受賞する優秀な成績を収めました。

池川分団も敢闘賞（ポンプ車）



森分団の選手：左から指揮者・西森一章部長、1番員・西森龍平団員、2番員・宮本嘉彦団員、3番員・谷脇崇団員、補助員・大窪健班長



池川分団の選手：左から4番員・山尾久雄班長、補助員・大田太猪助班長、指揮者・甫木元泰寛部長、3番員・若藤浩団員、1番員・安部和広部長、2番員・渡邊忠志団員

全国一斉 秋の火災予防運動

11月9日（金）から11月15日（木）までの7日間、全国一斉に秋の火災予防運動が実施されます。

2007年度全国統一防火標語
「火は見てる あなたが離れる
その時を」

これからの時期は空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節になります。

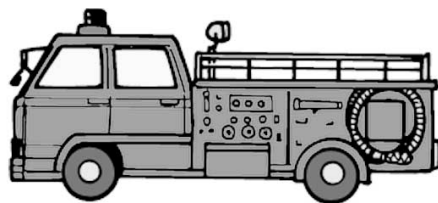
火災は人災です。地域住民の方々は日ごろより、火の取り扱いには十分注意されていると思われますが、火災で皆さんの大切な命や財産を失わないよう、いま一度「秋の火災予防期間中」に“火の用心”について再確認していただきたいと思います。

高吾北消防署 26・2111

仁淀川分署 35・0017



森分団の操法



茶畑・木材工場など見学

タイ・ベトナムの大学生ら来町

タイとベトナムの大学生と教員、高知大学の学生、教員の一行二十人が十月十五、十六日に本町を訪れ、高瀬船野の茶畑や池川地区の木材工場などを見学したほか、中学生や地域住民との交流を深めました。



船野の茶畑の脇の斜面でカヤ刈りを体験する学生。タイやベトナムは平地が多いため、このような場所で作業することはないとのこと

池川木材工業・石神工場



高知大学農学部では海外フィールドサイエンス実習として、東南アジアの協定大学との学生交流を行っています。今回はタイとベトナムの大学から十五人、高知大学から五人が参加して、山間地の農業や治山・治水対策などについて学びました。

十五日は、仁淀中学校で中学生と交流した後、地すべり対策工事が行われている高瀬地区で排水トンネルを見学しました。

続いて船野の茶畑に移動、沢渡茶生産組合の谷脇洋輔組合長から「ここは地理的に茶作りに適している。味、香りのよいお茶ができる」と説明

を受けたほか、茶畑わきのカヤ刈りを体験しました。

十六日は池川神社を見学後、池川木材工業(有)へ。同社にはベトナムからの研修生がおり、学生らと対面し談笑する姿も見られました。同社の石神工場、見ノ越工場では、木材の乾燥施設や、すのこの製造風景を見学しました。

その後、中央公民館に移動し、大石弘秋副町長らと懇談。学生らは「中学生と良い交流ができた。地域の方との交流も楽しかった。温かいもてな

楽しいひととき

学生らは十五日夜、宿泊先の観光センターで、森山地区の約二十人と交流会を行いました。

自己紹介の後、それぞれの国の歌や踊りで、和やかに楽しい時間を過ごしました。婦人部は手作りのよもぎまんじゅうを持参しておもてなしました。

「おいしい」と好評でした。森山の方々は「いい経験ができた。子どもたちは言葉は通じなくてもスキんシップで心が通じたようだ」と話していました。

森山地区とも交流

しに感謝している。タイは平地が多いので、山岳地での体験(カヤ刈りなど)は良い経験になった。チャンスがあれば、もう一度来たい」などと仁淀川町の感想を述べていました。また町の高齢者対策、少子化問題、山林についての質問も次々と出ていました。一行は最後に中村の棚田を見学。井上利明さんから話を聞き、刈り取った稲の脱穀作業を経験し、仁淀川町を後にしました。



子どもたちと一緒に踊る学生